

温泉観光地の再生に関する実証的研究Ⅳ

—『阿寒湖温泉再生プラン2010』の計画監理業務〈2年目〉—

公開

当財団が北海道・阿寒湖温泉の活性化に取り組んで4年目にあたる2003年度は、『阿寒湖温泉再生プラン2010』(01年3月策定)に位置づけられた8つの基本戦略(56プロジェクト)を計画的に実現させていくための戦略づくりや体制づくりを支援した。特に重点を置いた事業は、滞在化を促進するための「滞在パンフレット」の作成と商店街の活性化を目的とした「まりも家族手形」の実施、そして「阿寒湖岸の公園化」のための環境省事業の導入に向けた各種取り組みである。一方、市町村合併も視野に入れた阿寒観光協会と阿寒湖温泉まちづくり協議会の統合・法人格取得に向けた取り組みにも着手した。

(阿寒湖温泉まちづくり協議会との共同研究〈4年目〉)

●梅川智也 朝倉はるみ 通山千賀子

本編『2003年度阿寒湖温泉活性化支援事業』

目次 ◆◆◆◆◆

I. 2003年度の事業概要と年間スケジュール

II. 事業予算

III. 基本戦略別プロジェクトの実施内容

戦略1. 滞在すると楽しい! 温泉地にしよう

プロジェクト1 のんびり阿寒プロジェクト
プロジェクト2 キャンプ場の整備
プロジェクト5 「私の好きな阿寒百選」
プロジェクト7 多様な時間消費メニューに関する情報提供
プロジェクト8 365日イベントカレンダーの作成
プロジェクト14 ビューポイントの発掘

戦略2. 歩いて楽しい、美しい街にしよう

プロジェクト12 阿寒湖岸の公園化
プロジェクト18 温泉街の景観づくり
プロジェクト36 温泉街の交通システムの改善
プロジェクト13 足湯・外湯の整備
プロジェクト15 まちかどの園地整備
プロジェクト19 花いっぱいプロジェクト
プロジェクト20 河川環境整備

戦略3. 恵まれた自然を皆で大切にしよう

プロジェクト24 宿泊施設、商店、住宅における環境保全運動の展開

戦略4. 自ら阿寒湖温泉の未来を考え、行動しよう

プロジェクト26 地域通貨と財源確保の仕組みづくり
プロジェクト34 「まりも倶楽部」の開催

戦略5. “歩く”ことを優先した交通システムにしよう

プロジェクト36 温泉街の交通システムの改善
交通システムプロジェクト
散策路プロジェクト

戦略6. 楽しく、おいしく、便利な商店街にしよう

プロジェクト41 あかん湖丼の展開
プロジェクト42 小腹の足し食品・土産品の開発
プロジェクト43 イベント開催時の屋台出店
プロジェクト46 商店街が主催するイベント
プロジェクト47 多様な商店の誘致と特徴のある店づくり

戦略7. 皆でお客様をおもてなししよう

戦略8. 阿寒湖温泉の情報を共有し、発信しよう

プロジェクト51 ニュースレターの継続発行
プロジェクト55 マスコミへの広報活動

IV. 2004年度プロジェクト推進に向けて

(注) プロジェクト-Noは、『阿寒湖温泉再生プラン2010』に位置づけられた56のプロジェクトのうち2003年度に取り組んだものである。

2. 2003年度に実施した主なプロジェクト別事業内容

戦略1. 滞在すると楽しい! 温泉地にしよう

① のんびり阿寒プロジェクト

来訪者の滞在時間を延伸し、阿寒湖温泉での消費額を増やすことを目的にしている。03年度からは「2泊3日商品化プロジェクト」も統合した。

● 滞在プログラム・パンフレット作成事業

JTB協定旅館ホテル連盟の「特別事業宣伝費（観光地の魅力づくり）補助事業」に、阿寒湖温泉での滞在時間延伸のための「滞在プログラム作成事業」を申請、受理された（3カ年事業）。03年度（1年目）は、滞在プログラム・パンフレット『阿寒湖温泉あなたが作る時間割』（写真1）を作成し、04年度より宿泊施設で配布することとした。

この事業では、阿寒湖温泉でできる滞在メニューを整理し、阿寒湖温泉での過ごし方を提案した。さらに「私の好きな阿寒百選」で提案されたビューポイントやイベント等を入れ込んだ。

写真1 滞在プログラム・パンフレット



● 2004年度の方向性

滞在プログラム・パンフレットや湯めぐり帳など、観光客の滞在時間延伸を支援するツールを活用し、旅館組合が中心となりJTB旅連の補助事業も活用して「1泊のんびりキャンペーン」を検討する。

戦略2. 歩いて楽しい、美しい街にしよう

① 阿寒湖岸の公園化

（温泉街の景観づくり及び温泉街の交通システムの改善を含む）

● 「阿寒湖温泉・ランドデザイン懇談会」の継続開催

再生プランの最重点プロジェクト「阿寒湖岸の公園化」や「温泉街の景観づくり」の実現に向け、関

係機関の意見交換の場として、9月と1月の2回（通算3、4回目）開催した（顧問：菊地邦雄法政大学教授、メンバー：活性化検討委員・阿寒町・（財）前田一步園財団・観光協会・まちづくり協議会、オブザーバー：環境省・北海道、事務局：当財団）。

主に、今後の湖畔公園整備と温泉街の交通問題について検討された。

● 「国立公園阿寒湖運営協議会」の設置

02年度環境省によって策定された「阿寒国立公園阿寒湖畔集団施設地区再整備基本構想」で当協議会の設置が提案され、03年1月に設立された。

当協議会の役割は、当初、湖畔整備の関係主体（地権者、民間事業者、環境省などの行政機関、（財）前田一步園財団等）の意向調整と事業推進であったが、その後国土交通省の参画も経て再生プランの実現に向けた関係行政機関によって構成される組織（会長：中島守一阿寒町長）となった。定期的に会合を開催して予算の確保や事業の優先順位、さらには構想そのものの見直しなどを行う予定である。

● 阿寒湖畔駐車場実態調査の実施

国立公園にふさわしい、美しく、歩きやすい観光地を目指し、路上駐車や駐車場の現状（台数、位置等）を把握し、改善に向けた参考資料とするために、11月に実施した（実施主体：まちづくり協議会、作業は当財団、ライヴ環境計画が支援）。

温泉街の住民、商店、事業所、ホテルの自動車保有台数と駐車場実態を、聞き取り及びアンケートにより調査した。

現状の問題点を、住民、事業所、商店、ホテルに分けて整理し、路上駐車がなく、住民・観光客にとって使いやすい駐車場の整備に向けた方向性を提案した。

● 2004年度の方向性

「阿寒湖温泉・ランドデザイン懇談会」と「国立公園阿寒湖運営協議会」は連携をとりながら開催を継続し、湖岸公園の実現並びに交通システム（まずは駐車場問題）の解決を目指す。

環境省は湖畔公園の実現に向けて実施計画・実施設計を行い、04年度からの工事着工を目指す。

② 足湯・外湯の整備

温泉街らしい雰囲気を演出し、宿泊客を商店街に出すことを目的にしている。02年度には、まりもの里商店街に足湯1カ所、手湯2カ所が設置された。

03年度は、まりもの里商店街に手湯1カ所、幸運の森商店街に足湯1カ所が整備された(いずれも各商店の自主製作。写真2)。

12月には、キャンプ場に足湯が整備され、「ユックの湯」と命名された(供用開始は04年春)。

02年度は、2カ月間販売した「阿寒湖温泉&野中温泉 ぐるっと湯めぐり帳」(販売価格1,500円)を、03年度は通年販売した(協賛施設18軒)。

●2004年度の方向性

エコミュージアム前に計画中のポケットパークに、足湯併設を検討している。

③花いっぱいプロジェクト

01年度からまちづくりのシンボルプロジェクトとして住民主体で積極的に取り組んでいる。03年度は、02年度までの活動に加え、以下の活動を行った。

- ・02年度末に発行した住民向けガイドブック『阿寒湖温泉の花づくりー花いっぱいプロジェクトの推進指針』を6月初旬までに湖畔全戸に配布。
- ・園芸市、ハンキング講習会を6月に実施。
- ・実験ガーデンの植栽及び株分けを、北海道開発局の支援を受け、6月中旬に実施。
- ・商店街への植栽指導を6月に実施。
- ・03年度で切れる実験ガーデンの借地契約(所有者：(財)前田一歩園財団)の更新交渉。

●2004年度の方向性

- ・園芸市及び講習会を継続実施する。
- ・まりも倶楽部が提案した「花アドバイザー」によるまちなかでの植栽の指導を実施する。
- ・ライブ環境計画指導のもとに実験ガーデンを整備する。
- ・町内会ごとの管理者を決める等して、常に商店街に花を絶やさないようにつとめる。

戦略3. 恵まれた自然を皆で大切にしよう

①宿泊施設、商店、住宅における環境保全運動の展開

まりも倶楽部が携帯灰皿(実費で販売)とエコバッグ(釧路地域政策人材育成補助金による)を作成した。

写真2 商店主の手づくり“手湯”



②阿寒湖の生態系の保全

まりも倶楽部が6月にマリモ生育地保護作業を行った。

●2004年度の方向性

未定

戦略4. 自ら阿寒湖温泉の未来を考え、行動しよう

①地域通貨と財源確保の仕組みづくり

02年度「まりも家族手形」の社会実験を踏まえ、地域通貨への転換の可能性を検討するために、03年度は手形を有料販売した(詳細は戦略6参照)。

●2004年度の方向性

市町村合併を前提とした阿寒湖温泉活性化事業の安定した財源の確保を町に働きかける。

②「まりも倶楽部」の開催

01年度に、阿寒町の女性の人材育成のために始まった当事業は、03年度も02年度同様に精力的かつ自主的にさまざまな活動を行った。

また、これら活動が認められ、12月には「釧路しんきん地域貢献事業助成金」を授与した。

- ・花いっぱい運動(中学校花壇、園芸市等)
- ・シンポジウム等参加(まちづくり交流フォーラム、根釧管内スローフェスタ、北大ザリガニシンポジウム、釧路の食と観光の連帯を考えるフォーラム、地域情報デザインフォーラム等)
- ・イベントへの参加(夏祭り、まりも祭り等)
- ・他組織と交流(婦人会、調理士会等)
- ・グッズ製作(携帯灰皿、エコバッグ)
- ・環境保全活動(マリモ生育地保護作業)
- ・料理研究・食品開発(ザリガニ・エゾシカ料理開発、試食会、中学校調理実習等)
- ・散策会、視察、研修会(網走・知床等)
- ・広報活動(小説新潮取材、NHK生出演、釧路新聞「まりもな時間」連載)

●2004年度の方向性

これまでの活動を踏まえ、多様な活動を続けていく。

戦略5. “歩く”ことを優先した交通システムにしよう

①温泉街の交通システムの改善

(詳細は戦略2参照)

戦略6. 楽しく、おいしく、便利な商店街にしよう

① 社会実験「まりも家族手形」(Step II)の実施

02年度、最重点プロジェクトである「のんびり阿寒キャンペーン」と「地域通貨と財源確保の仕組みづくり」関連事業として、国土交通省「観光まちづくり支援プログラム策定推進事業」として行った社会実験「まりも家族手形」(写真3)を、条件を変更して行った。

02年度との主な相違点は、独自財源確保の可能性を探るために有料販売(1個200円)にした点とPRの強化(ポスター・客室ポップ配布、道内空港レンタカー会社にPR協力要請等)、利用者拡大のために日帰り客にも販売したこと、実験期間を延長(2カ月間→3カ月間)にしたこと等である。

なお、協賛店で手形を呈示すると特典を受けられる、というシステムは02年度と同様である。

写真3 まりも家族手形



●実験結果と課題(アンケート調査より)

まりも家族手形の購入者は少なかった。その理由として、「有料」「値段が高い」「システムがわからない」が挙げられた。

協賛店にとっても売上増といった直接的な効果は特になかったが、事業の継続を望む声は多かった。

宿泊施設は地域の活性化事業と認識しており、これからも手形の実施には協力するとしている。

購入者は少なかったものの、手形に対する満足度は高かった。しかし、有料のため特典に対する期待は強かったようで、協賛店からみると購入者はそれほど満足してくれなかったとみている。

●2004年度の方向性

宿泊客をまちなかに出し、商店街を活性するための仕掛けである「まりも家族手形」事業は、年々疲弊している商店街の現状からみても、今後も継続することが望ましい。そのためには、下記の点

についての検討が必要である。

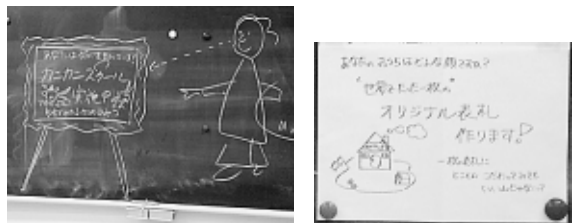
- ・商店街活性化を目的とした事業であり、事業の継続そのものから商店街で議論する。
- ・事業を継続するならば、02、03年度の事業内容、利用者アンケート等を踏まえ、システム改善(事務局体制の確立、事業費の確保、わかりやすい仕組みづくり、旅行会社と連携した宿泊客へのPR強化等)を行う。
- ・03年12月に始まった「一店逸品運動」により、商店の「核＝逸品」の強化と「まりも家族手形」という仕組みを連動させることで、さらなる商店街の活性化を目指す。

②「一店逸品運動」の展開

商店主の意識改革、人材育成を行い、観光客のニーズに対応できる商店街を形成するために、野口智子氏(ゆとり研究所)の指導のもと、3回(12月、1月、3月)のワークショップを行った。

ワークショップでは「すぐれている」という意味の理解を深め(逸品の条件整理と認識の共有)、各商店の「すぐれたモノ」「すぐれたコト」のポップづくりを行った。講師からは、「ポップを入れる額を統一し、各自でポップを作成すれば、費用をかけずに手軽に一店逸品をアピールすることができる。これらの逸品を集めればフェアも開催できる(写真4)。新しい商品を開発せずとも“すぐれたモノ・コト”は阿寒湖温泉にも既にたくさんある」といった指導を受けた。

写真4 ポップの例。野口講師の指導(左)と参加者の作品(右)



●2004年度の方向性

一店逸品運動は03年度単年で終了した。

商店街の活性化は阿寒湖温泉活性化に不可欠な事業であるため、自主活動として継続していく。具体的には、商店街若手有志を中心に、商店街マップづくりや店頭ポップづくりを進める。その際には適宜、電話・ファクス等で野口講師よりアドバイスを受ける。

戦略7. 皆でお客様をおもてなししよう

来訪者の満足度を高めるために、おもてなしのレベルアップを図ることは重要なプロジェクトであるが、03年度は具体的な進展はなかった。

●2004年度の方角性

事業内容に応じて、適宜先進地の視察を行う。

戦略8. 阿寒湖温泉の情報を共有し、発信しよう

① ニュースレターの継続発行

●事業内容

03年度は4回(5月、9月、11月、3月)発行した。各号の主な掲載記事は以下のようなものである。

- ・5月号(通巻10号): まちづくり交流フォーラム
- ・9月号(通巻11号): まちづくり協議会総会、集団施設地区再整備基本構想
- ・11月号(通巻12号): 湖畔公園整備
- ・3月号(通巻13号): 湖畔公園整備、商店街活性化プロジェクト、滞在プログラムパンフレット

写真5 「まりもな時間」記事(釧路新聞)



●2004年度の方角性

当財団が製作・印刷し、4~5回発行する。

② マスコミへの広報活動

02年度に引き続き、まりも倶楽部が釧路新聞に「まりもな時間」を連載した(写真5)。

●2004年度の方角性

常にマスコミに対して情報提供を心がける。

3. 2004年度のプロジェクト推進に向けて

① まちづくり組織の統合と法人化

阿寒湖温泉には業種横断的な組織として1946年に設立した観光協会と、01年に創設されたまちづくり協議会がある。いずれも任意団体で役員の多くは両組織を兼務しており、事業内容も連携・協力を必要とするものが多い。また、収入の面では両組織とも町からの補助金によって運営されてい

るが、まちづくり協議会は観光協会からの「まちづくり特別分担金」(03年度で終了)が最大の収入であり、財務基盤が弱いという問題をかかえている。

しかしながら、阿寒湖温泉が今後とも道東の宿泊拠点として持続的な発展を続けていくためには、これまで観光協会が推進してきた事業に加え、再生プランの実現が不可欠である。阿寒湖温泉の観光構造が大きく変貌しているだけでなく、地方分権や市町村合併など、わが国の地方制度、財政制度などが大きく変わろうとしている今こそ、阿寒湖温泉の限られた資源(人、金、物)を集中させ、最大限に活用しつつ、目標に向かって進まなければならない。

こうした状況を踏まえ、04年度は、2組織を統合し、機能・予算・人材等の面において業務の効率化を図り、さらに法人格(NPO法人)を取得して組織基盤を強化し、阿寒湖温泉の活性化事業を継続することとする。

② 事業計画案

●再生プランの3年間の評価とプランの見直し

各種プロジェクトの進捗状況のチェックと課題の整理、今後の進め方等を整理する。

●湖畔公園の実現と交通問題解決

環境省・国土交通省と連携し、湖畔公園のマスタープラン策定に向け、住民参加のワークショップ開催等を支援する。また、駐車場や路上駐車などの交通問題解決に向けた社会実験を行う。

●イベントの抜本的見直し

02年度に実施した「阿寒湖温泉イベント現況調査」を参考に、関係組織と議論のうえ、抜本的な見直しを行う。

●滞在時間延伸に向けた事業

03年度にJTB協定旅館ホテル連盟の支援を得て作成した「滞在プログラム・パンフレット」の活用促進と滞在時間延伸を目的とした「のんびり阿寒キャンペーン」を展開する。